

令和5年度全国学力・学習状況調査分析と活用

教科に関する調査結果の分析と今後の取組

熊本県教育委員会

1 教科に関する調査の結果（公立小中学校）

本県の概要

- ・ 小学校では、**国語は全国平均とほぼ同じ状況であり、算数は全国平均を下回っている。**
- ・ 中学校では、**国語は全国平均とほぼ同じ状況であり、数学と英語は全国平均を下回っている。**

	【小学校6年生】	
	国語	算数
熊本県	67%	61%
全国	67.2%	62.5%

	【中学校3年生】		
	国語	数学	英語
熊本県	69%	48%	42%
全国	69.8%	51.0%	45.6%

※表中の数値は平均正答率（%）、県の値は国から整数値で公表

1 教科に関する調査結果の概要（各教科の出題内容について）

各教科の出題内容

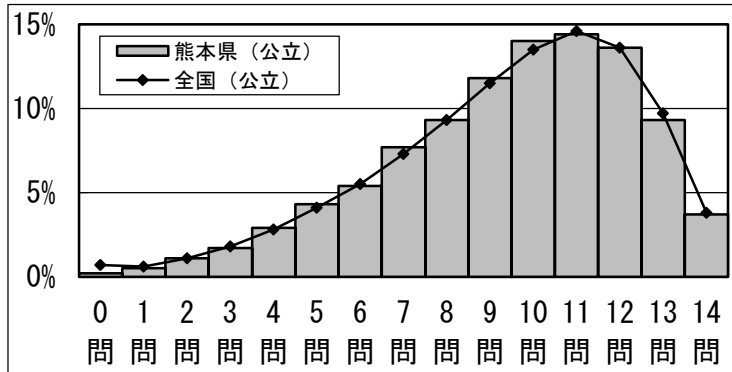
- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 3ページ以降の各教科の結果分析で、

（知）や「知識」と記しているものは、「知識・技能」で、
（思）や「思考」と記しているものは、「思考・判断・表現」で、
評価の観点を示しています。

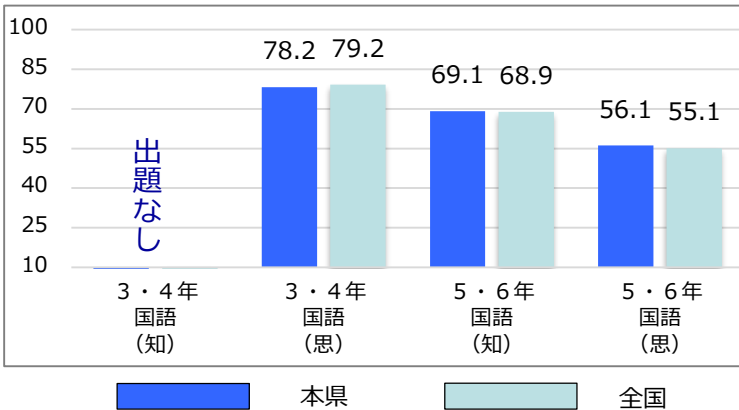
2 - (1) 教科の結果分析 (度数分布、正答率、小問別正答率)

【正答度数分布】



【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



※(知)は知識・技能、(思)は思考・判断・表現

【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
※★は継続している課題

問題番号	出題の趣旨	学年	学習指導要領 指導事項	観点	正答率(%)		
					県	全国	差
1	一 原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	5年 6年	情報の扱い方に関する事項ア	知識	63.7	64.7	-1.0
	二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	5年 6年	「書くこと」エ	思考	27.5	26.7	0.8
	三 (1)ア 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5年 6年	言葉の特徴や使い方に関する事項工	知識	53.2	52.8	0.4
		5年 6年	言葉の特徴や使い方に関する事項工	知識	72.4	72.6	-0.2
	三 (2)イ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5年 6年	言葉の特徴や使い方に関する事項ウ	知識	93.8	93.1	0.7
	四 文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	5年 6年	言葉の特徴や使い方に関する事項ア	知識	78.6	79.8	-1.2
2	一 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる	3年 4年	「読むこと」ウ	思考	89.3	90.0	-0.7
	二 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	5年 6年	「読むこと」ウ	思考	66.0	67.4	-1.4 ★
	三 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5年 6年	情報の扱い方に関する事項イ	知識	60.7	62.0	-1.3
	四 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	5年 6年	「読むこと」オ	思考	57.9	56.2	1.7
3	一 (1) 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうかをみる	3年 4年	「話すこと・聞くこと」工	思考	72.2	73.6	-1.4
		3年 4年	「話すこと・聞くこと」工	思考	73.1	74.0	-0.9
	一 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	5年 6年	「話すこと・聞くこと」工	思考	72.8	70.2	2.6
	三 日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	5年 6年	言葉の特徴や使い方に関する事項キ	知識	61.4	57.6	3.8

成果

- 記述式の問題(1二、2四、3二)は全て全国平均を上回っている。
- 無解答率は、1問を除き全国より低い。(1三(1)アは同率)
- 適切な敬語の使い方(3三)については、平成30年度に出題されたときよりも正答率が上がり、全国との差も広がっている。
H30: 正答率56.2(+0.2) → R5: 正答率61.4(+3.8)

課題

- R3年度にも出題された「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること」(2二)については、依然として課題である。
R3: 正答率33.3(-1.1) → R5: 正答率66.0(-1.4)
- 現行の学習指導要領から新たに加わった「情報の扱い方に関する事項」に関する問題(1一、2三)は、どちらも全国平均を下回っている。

継続して課題となった問題

●2二(本県66.0%、全国67.4%、差-1.4)

目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる問題

2 相田さんの学級では、健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分でできそうなことを考えてまとめることにしました。次は、【相田さんの考え】と、相田さんが知りたいことを調べるために選んだ【資料1】、【資料2】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【資料1】運動について書かれた本の一部

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

二 相田さんは、【資料1】と【資料2】を読んでわかったことをメモにまとめています。次の【相田さんのメモ】の「ア」に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【相田さんのメモ】

◇持久力を高める運動
たくさんのお菓子をとり入れながら続ける
・軽いジョギング
・縄とび(続けてとぶ)

1 体のやわらかさを高める運動
しゅん間的に大きな力を出す
・ふっつきん運動
・うで立てふせ

2 体のやわらかさを高める運動
しゅん間的に大きな力を出す
・縄とび(続けてとぶ)

3 きん力を高める運動
しゅん間的に大きな力を出す
・ふっつきん運動
・うで立てふせ

4 きん力を高める運動
たくさんのお菓子をとり入れながら続ける
・ふっつきん運動
・うで立てふせ

【正答例】
・3と解答しているもの

【誤答例】
・1と解答しているもの(県 5.2%、全国 4.6%)
・2と解答しているもの(県 6.8%、全国 6.3%)
・4と解答しているもの(県 21.4%、全国 20.1%)
・無解答(県 0.6%、全国 1.4%)

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○説明的な文章を扱う単元(5・6年思判表C読(1)ウ)

◆誤答から考えられる授業

- ・1つの資料からだけ情報を読み取っている授業
- ・読む目的や読み取る内容に関連した複数の部分をどのようにすれば正確に捉えられるかが明確でない授業

☆こんな授業へ

- ① 読む目的や伝える相手を明確にし、それに応じた複数の資料を子供自身が見付けたり選択したりして活用するようにする。
- ② 調べたことを伝えたり考えをまとめたりする際に、一つの情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較・分類したり、関係付けたりして検討することを日常化する。
- ③ 必要な情報を見付ける際には、繰り返し使われている語句や似たような意味をもつ語句に着目して読むようにする。
- ④ 複数の資料の関係性を捉える際には、文章中の言葉と図表などの言葉を線で結び付けるなどして視覚的に理解できるようにする。

・学習指導に当たっては、読む目的に応じて、複数の資料を読みながら、必要な情報を見付け、その関係性を考えられるようにすることが大切である。

R5報告書(小学校国語)P41

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・R3全学調:小学6年大問2三
- ・R4県学調:小学5年5(3)
- ・R4県学調:小学6年5(3)

～こんな子供の姿へ～

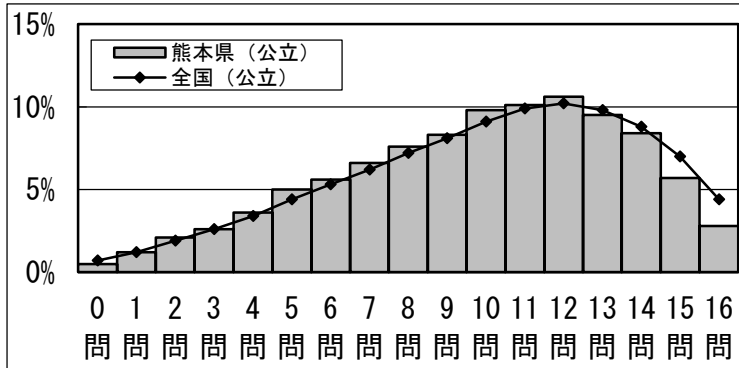
自分の読む目的に応じて、複数の資料から必要な情報を得るよさを感じ、情報を組み合わせて、より分かりやすく表現しようとする子供

誤答例から考えられる授業での子供の姿

2つの資料からではなく、1つの資料だけを読んで判断してしまい、必要な情報の一部しか見付けることができていない。

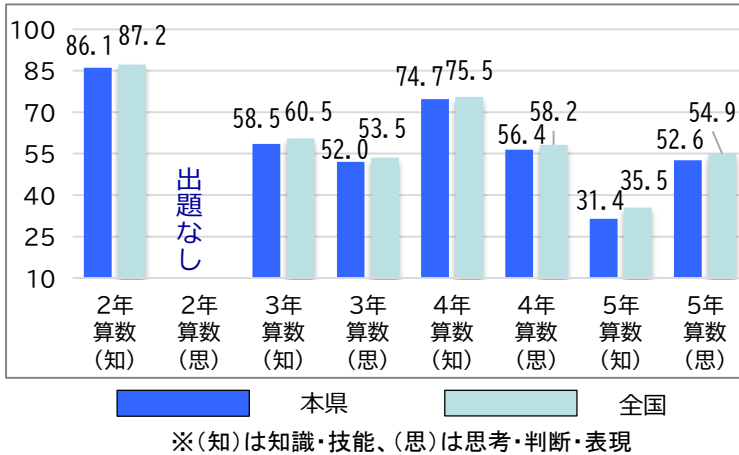
2 - (1) 教科の結果分析 (度数分布、正答率、小問別正答率)

【正答数度数分布】



【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
※★は継続している課題

問題番号	出題の趣旨	学年	単元名等 (領域)	観点	正答率(%)		
					県	全国	差
1	(1) 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる	4年	変わり方調べ (変化と関係)	知識	93.4	93.5	-0.1
	(2) 伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる	5年	比例 (変化と関係)	思考	87.4	88.5	-1.1
	(3) 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	5年	比例 (変化と関係) 単位量あたりの大きさ (変化と関係)	思考	54.1	55.5	-1.4
	(4) 一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	3年	かけ算の筆算 (数と計算)	知識	81.4	80.8	0.6
2	(1) 台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	4年	垂直・平行と四角形 (図形)	知識	58.6	59.8	-1.2
	(2) 正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	2年 4年	長方形と正方形 (図形) 垂直・平行と四角形 (図形)	知識	86.1	87.2	-1.1
	(3) 正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	3年 5年	三角形と角 (図形) 図形の角 (図形)	知識	21.4	24.9	-3.5★
	(4) 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	5年	四角形と三角形の面積 (図形)	思考	16.4	20.8	-4.4
3	(1) () を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	4年	計算のきまり (数と計算)	思考	69.8	70.3	-0.5
	(2) 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	3年 4年	小数 (数と計算) 小数のかけ算 (数と計算)	思考	54.0	56.7	-2.7
	(3) 加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	4年	計算のきまり (数と計算)	知識	72.7	72.4	0.3
	(4) (2位数) ÷ (1位数) の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる	3年 4年	わり算 (数と計算) わり算の筆算 (数と計算)	思考	45.3	47.6	-2.3
4	(1) 百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる	5年	割合 (変化と関係)	知識	41.3	46.0	-4.7★
	(2) 「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	3年 4年	表とグラフ (データの活用) 概数 (数と計算)	知識	72.7	75.7	-3.0
	(3) 示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	3年	表とグラフ (データの活用)	思考	56.7	56.2	0.5
	(4) 二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	4年	表とグラフ (データの活用)	知識	64.6	64.6	0.0

成果

- 二次元の表から条件に合う数を読み取ることが改善されている。
R 4 : -1.1 (3(1)) → R 5 : 0.0 (4(4))
- データの活用領域が改善されている。
R 4 : -2.3 (3(1)(2)(3)) → R 5 : -0.8 (4(2)(3)(4))

課題

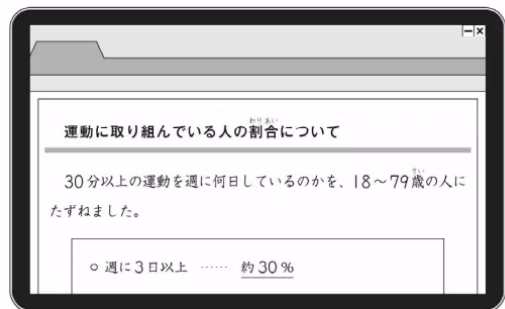
- 百分率で表された割合について理解することに継続して課題が見られる。 R 4 : -2.8 (2(3)) → R 5 : -4.7 (4(1))
- 正三角形の意味や性質について理解することに継続して課題が見られる。 R 4 : -2.2 (4(1)) → R 5 : -3.5 (2(3))
- 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみることに課題が見られる。 R 5 : -4.4 (2(4))
- 正答率8割 (13問) 以上の割合は少ない。

継続して課題となった問題

●4(1)(本県41.3%、全国46.0%、差-4.7)

百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題

4
 あいさんは、毎日を健康に過ごすためには、運動、食事、休養・すいみん (1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、
 が必要であることを学習しました。そこで、インターネットで運動について 下の **ア** から **オ** までの中から2つ選んで、その記号を
 調べると、下のよう記事を見つけました。 書きましょう。



あいか
 1日に30分以上の運動を、週に3日以上している人の割合は (割合)
 約30%なのですね。

【正答例】
 ・ウ、エと解答しているもの

【誤答例】
 ・ア、ウと解答しているもの イ、ウと解答しているもの (県 12.5%、全国 11.1%)
 ・ア、エと解答しているもの イ、エと解答しているもの (県 18.0%、全国 17.1%)
 ・ア、オと解答しているもの イ、オと解答しているもの (県 13.1%、全国 11.9%)

R5報告書(小学校算数)P81

誤答例から考えられる授業での子供の姿

百分率が具体的にイメージできておらず、基準量と比較量を正しく捉えることができていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 簡単な場合についての割合(4年知技C(2)ア、思判表C(2)イ)
- 異種の二つの量の割合(5年思判表C(2)イ)

◆誤答から考えられる授業

- ・基準量と比較量及び割合について、具体的な場面や図や式と結びつけられていない授業
- ・意味理解を伴わないまま、公式を使った計算の処理のみが重視されてしまっている授業

☆こんな授業へ

- ① 百分率で表された割合から基準量を自ら決めて、それに対する比較量を、図などを用いて捉える活動を設定する。
- ② 基準量と比較量を図や式に適切に表したり、図や式から数量の関係を整理して捉えたりした上で、基準量と比較量を適切に選択し、割合を求める活動を設定する。
- ③ 興味・関心に基づいて問題を設定し、目的に応じてデータを収集し、表やグラフに表したり読んだりすることや、割合などで表されたデータの特徴を捉える活動を設定する。

日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要である。 R5報告書(小学校算数)P83

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

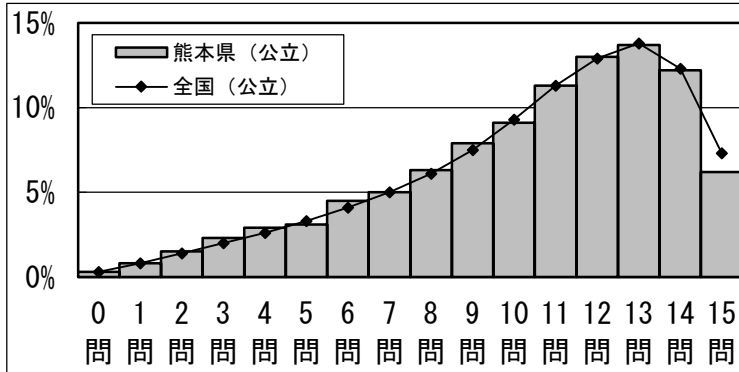
- ・H21全学調:小学6年A7
- ・H30全学調:小学6年A8
- ・H29県学調:小学6年2(2)
- ・H30県学調:小学6年2(2)

～こんな子供の姿へ～

基準量と比較量を図や式に適切に表し、数量の関係を捉えた上で割合を求めたり、割合を用いた比べ方を日常生活に生かそうとしたりする子供

2 - (1) 教科の結果分析 (度数分布、正答率、小問別正答率)

【正答度数分布】



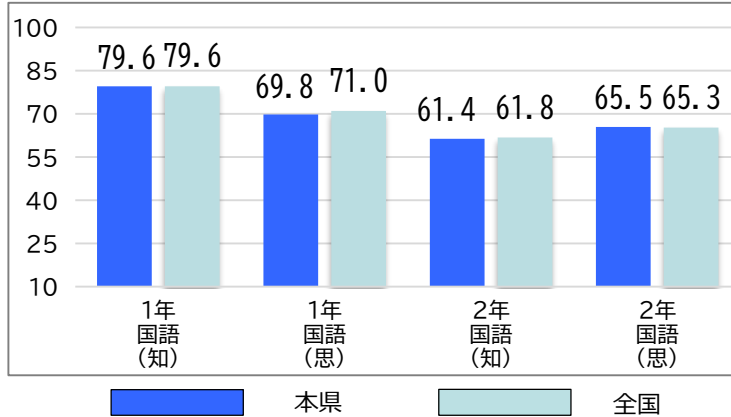
【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
 ※★は継続している課題

問題番号	出題の趣旨	学年	学習指導要領 指導事項	観点	正答率(%)		
					県	全国	差
1	一 目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる	1年	「話すこと・聞くこと」ア	思考	86.2	87.5	-1.3
	二 意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	1年	情報の扱い方に関する事項ア	知識	64.6	65.1	-0.5
	三 話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することができるかどうかをみる	1年	「話すこと・聞くこと」エ	思考	76.6	76.6	0.0
	四 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	1年	「話すこと・聞くこと」エ	思考	82.5	82.5	0.0
2	一 事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	1年	言葉の特徴や使い方に関する事項ウ	知識	90.2	91.1	-0.9
	二 観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる	2年	「読むこと」エ	思考	60.8	63.0	-2.2★
	三 文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる	1年	「読むこと」ア	思考	72.4	74.2	-1.8★
	四 文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる	2年	我が国の言語文化に関する事項エ、「読むこと」オ	知識 思考	70.1	67.5	2.6
3	一 読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	1年	「書くこと」エ	思考	51.4	54.3	-2.9
	二 文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2年	言葉の特徴や使い方に関する事項ウ	知識	41.0	43.9	-2.9
	三 具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	2年	情報の扱い方に関する事項ア	知識	60.1	61.8	-1.7
	四 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	1年	「書くこと」ウ	思考	69.6	72.1	-2.5
4	一 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる	1年	我が国の言語文化に関する事項ア	知識	84.1	82.5	1.6
	二 古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる	2年	我が国の言語文化に関する事項イ	知識	74.3	74.1	0.2
	三 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	1年	「読むこと」エ	思考	49.8	50.0	-0.2

【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



※(知)は知識・技能、(思)は思考・判断・表現

成果

- 自分の考えを書く問題(1四、2四)は全国平均と同じか全国平均を上回っている。特に、「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付けて書く」ことについて、全国平均を2.6ポイント上回っている。
- 「我が国の言語文化に関する事項」において、「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むこと」(4一)について正答率が高く、全国平均も上回っている。

課題

- 「読むこと」の領域において、「表現の効果について考えること」(2二)や「叙述を基に要旨を把握すること」(2三)等の問題で全国平均を下回っており、依然として課題である。
 - 「書くこと」領域については、昨年度から全国平均を下回り、「根拠を明確にして書くこと」(3四)等に課題がある。
- R4:(2三)正答率45.2(-1.3) → R5:(3四)正答率69.6(-2.5)、(3一)正答率51.4(-2.9)

継続して課題となった問題

●2二(本県60.8%、全国63.0%、差-2.2)

観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる問題

- 2 中山さんは、本の読み方について考えるために、【A】と【B】の文章を読んでいます。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。
- 二 【A】と【B】の文章に共通している表現の効果を説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 主張に関わる言葉を引用することで、伝えたいことを印象付けている。
 - 2 敬体でていねいに述べることで、伝えたいことを身近に感じさせている。
 - 3 問いかけを用いることで、伝えたいことに興味をもたせている。
 - 4 冒頭の一文に結論を示すことで、伝えたいことを明確にしている。

【A】省略
(岸見一郎『本をどう読むか』による)

【B】省略
(小林秀雄『読書について』による)

【正答例】
・1と解答しているもの

【誤答例】
・2と解答しているもの(県 12.4%、全国 10.8%)
・3と解答しているもの(県 10.2%、全国 9.2%)
・4と解答しているもの(県 16.3%、全国 16.5%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

「文章構成の工夫」や引用、常体・敬体等の「表現の特徴」について具体的に理解していない。または、「表現の特徴」があることによってもたらされる「表現の効果」を意識して読んでいない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○説明的な文章を扱う単元(2年思判表C読(1)エ)

◆誤答から考えられる授業

- ・文章構成の工夫や引用、常体・敬体等の表現の特徴に着目せずに、書かれている内容の読み取りに終始した授業
- ・複数の資料を用いて、表現の特徴や効果を比較検討していない授業

☆こんな授業へ

- ① 基本的な表現の特徴については、繰り返し丁寧に指導する。
- ② 文章構成の工夫や表現の特徴を見いだすために、二つの文章を同一の視点(引用があるか、冒頭に結論が書かれているか等)で比較して共通点や相違点を出し合うような学習活動を単元の中に位置付ける。
- ③ 文章の工夫や表現の特徴を捉える際には、構成や展開、引用や事例の示し方、文末表現や文体などの筆者の書きぶりに着目し、さらに、そこからもたらされる表現の効果を考える時間を設定する。

・同じ筆者による異なる文章、異なる筆者による主張が共通している文章、同一の話題で主張が異なる文章、同じ内容を扱った異なる新聞記事、立場の異なる読み手を想定した実用的な文章などを教材として取り上げることなどが考えられる。

R5報告書(中学校国語)P36

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

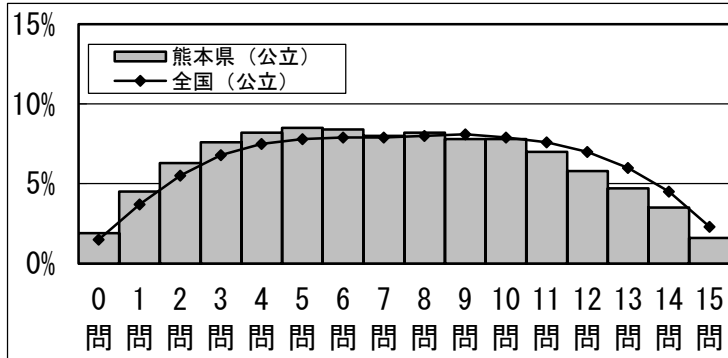
- ・H31全学調:中学3年1一
- ・R4県学調:中学1年4(3) ・R3県学調:中学1年4(3)

~こんな子供の姿へ~

複数の資料を比較検討しながら、文章構成や表現の特徴をもとに、その効果について考えたり、表現の工夫を自分で書く文章にも生かしたりする子供

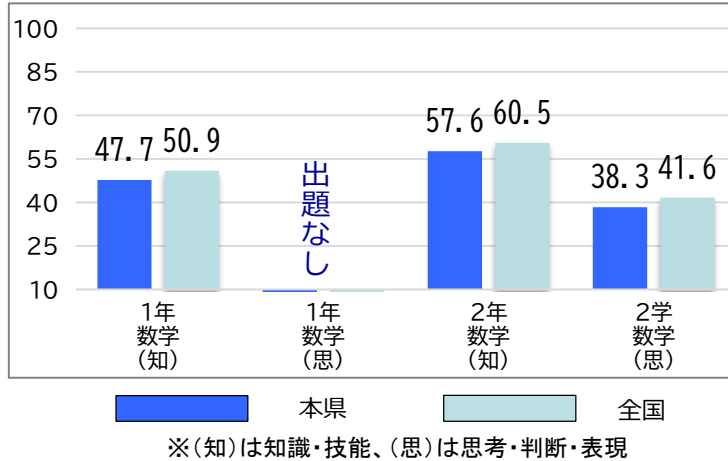
2 - (1) 教科の結果分析 (度数分布、正答率、小問別正答率)

【正答度数分布】



【観点別正答率】

全学調の各小問を、学年と観点別に分け、正答率を算出



【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
※★は継続している課題

問題番号	出題の趣旨	学年	単元名等(領域)	観点	正答率(%)		
					県	全国	差
1	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	1年	正の数と負の数(数と式)	知識	37.9	46.1	-8.2
2	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	2年	文字を用いた式(数と式)	知識	74.9	80.5	-5.6
3	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる	1年	空間図形(図形)	知識	25.3	30.4	-5.1
4	反比例の意味を理解しているかどうかをみる	1年	比例、反比例(関数)	知識	39.4	42.8	-3.4
5	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	1年	データの分布(データの活用)	知識	47.1	46.1	1.0
6	(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	1年	正の数と負の数(数と式)	知識	88.7	88.9	-0.2
	(2) 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	2年	文字を用いた式(数と式)	思考	53.3	58.8	-5.5★
	(3) 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	2年	文字を用いた式(数と式)	思考	36.5	40.9	-4.4
7	(1) 四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる	2年	データの分布(データの活用)	知識	62.1	65.7	-3.6
	(2) 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	2年	データの分布(データの活用)	思考	32.5	33.6	-1.1
8	(1) 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる	2年	一次関数(関数)	知識	56.1	57.5	-1.4
	(2) 事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	2年	一次関数(関数)	知識	60.6	61.7	-1.1
	(3) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	2年	一次関数(関数)	思考	42.8	42.8	0.0
9	(1) ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる	2年	図形の合同(図形)	思考	26.3	32.1	-5.8
	(2) 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる	2年	図形の合同(図形)	知識	34.2	37.0	-2.8

成果

- 「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができること」が改善されている。
R4 : -4.8 (6 (1)) → R5 : -0.2 (6 (1))
- 累積度数の意味を理解していることに成果が見られる。
本県 : 47.1 (5) 全国 46.1

課題

- 「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明すること」に課題が見られる。R4 : -1.4 (6 (3)) → R5 : -4.4 (6 (3))
- 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること」に継続して課題が見られる。R4 : -4.3 (6 (2)) → R5 : -5.5 (6 (2))
- 全国平均に比べ、正答率3割未満(5問以下)の割合が多く、7割以上(11問以上)の割合が少ない。また「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに課題が見られる。

継続して課題となった問題

●6(2)(本県53.3%、全国58.8%、差-5.5)

目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかを見る問題

(2) 夏希さんは、前ページの計算の例の計算結果がどんな数になるかを調べています。

1のとき	6	$6 = 3 \times 2$
4のとき	15	$15 = 3 \times 5$
-5のとき	-12	$-12 = 3 \times (-4)$

夏希さんは、これらのことから、「はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも3の倍数になる」と予想しました。この予想が成り立つことは、次のように説明できます。

説明1

はじめの数として入れる整数を n とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、3をたした数は $n + 3$ と表される。

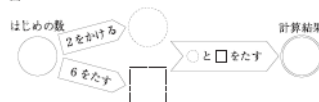
$$\begin{aligned} \text{計算結果は、} \\ n \times 2 + (n + 3) \\ = 2n + n + 3 \\ = 3n + 3 \\ = 3(n + 1) \end{aligned}$$

$n + 1$ は整数だから、 $3(n + 1)$ は3の倍数である。したがって、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも3の倍数である。

ここで、夏希さんは、前ページの図1で、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果がいつでも3の倍数になるのは、「3をたす」の「3」が3の倍数であるからではないかと考えました。

えずに、「3をたす」のたす数「3」を3の倍数である「6」に変えた次の図2をかきました。

図2



そして、はじめの数として2、5、-4を入れ、計算結果が3の倍数になるか調べました。

2のとき	12	$12 = 3 \times 4$
5のとき	21	$21 = 3 \times 7$
-4のとき	-6	$-6 = 3 \times (-2)$

調べたことから、夏希さんは、はじめの数としてどんな整数を入れても「はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になる」と予想しました。この予想が成り立つことを説明します。下の説明2を完成しなさい。

説明2

はじめの数として入れる整数を n とすると、はじめの数に2をかけた数は $n \times 2$ 、6をたした数は $n + 6$ と表される。

$$\begin{aligned} \text{計算結果は、} \\ n \times 2 + (n + 6) \\ = \end{aligned}$$

- 【正答例】
 ・ $3(n + 2)$ $n + 2$ は整数だから、 $3(n + 2)$ は3の倍数である。したがって、はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数である。
 ・ $3n + 6$ $3n$ 、6が3の倍数で、3の倍数の和は3の倍数だから、 $3n + 6$ は3の倍数である。したがって、はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数である。

- 【誤答例】
 ・ $3 \times \square$ の \square に $(n + 2)$ 以外の文字を用いた多項式又は単項式を入れて記述しているもの (県12.9%、全国10.6%)

R5報告書(中学校数学)P35~38

誤答例から考えられる授業での子供の姿

- 文字式がどんな数量を表しているかを理解できておらず、計算の結果を適切な式の形で表すことができていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

- 文字を用いた式(1年知技A(2)ア、思考表A(2)イ)
- 文字を用いた式(2年思判表A(1)イ)

◆誤答から考えられる授業

- 様々な数量を文字式で表すことについて、基礎となる知識及び技能の習得が十分ではないまま、説明の書き方のみが重視された授業

☆こんな授業へ

- 計算した結果がどのような数になるのか(何の倍数になるのか)予想を立てる場面を設定する。
 ※実態に応じて、○の倍数を文字を使った式で表すことや、文字を使って表した式の意味の読み取りなど、基礎となる知識及び技能について確認する。
- 予想した事柄について、どのような式の形で表すことができるのか見通しもつ。その上で、説明に必要な根拠を示していくことを授業に取り入れる。
- 問いに対して筋道立てた記述になっているか、説明を洗練させていく活動を取り入れる。

- 事柄が一般的に成り立つ理由を、構想を立てて説明する場面を設定し、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるように指導することが大切である。

R5報告書(中学校数学)P38

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

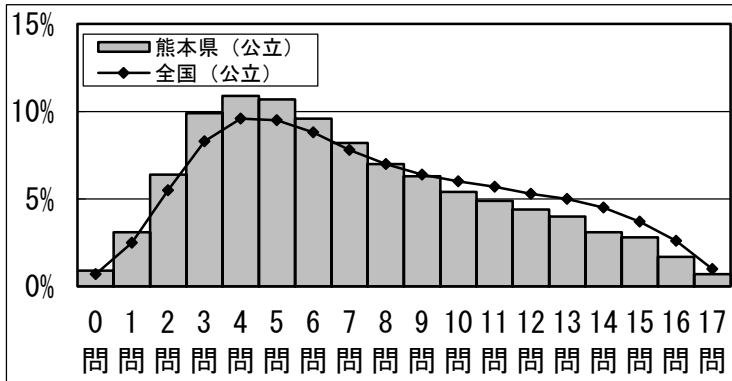
- ・R4全学調: 中学3年6(2)
- ・R3全学調: 中学3年6(2)
- ・R4県学調: 中学2年16(2)

～こんな子供の姿へ～

具体的な場面で、事柄が成り立つ理由を、基礎となる知識及び技能をもとに、根拠を明確にして説明できる子供

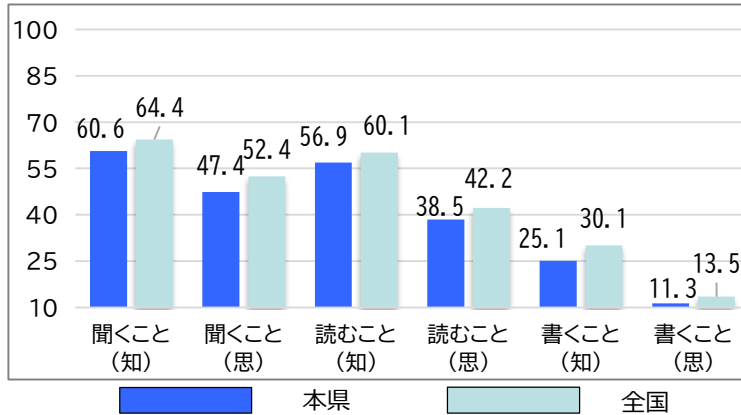
2 - (1) 教科の結果分析 (度数分布、正答率、小問別正答率)

【正答度数分布】



【観点別正答率】

全学調の各小問を、領域と観点別に分け、正答率を算出



※(知)は知識・技能、(思)は思考・判断・表現

■(注意)H31年度調査は、前学習指導要領に基づき出題

【小問別正答率】

※色のついたセルは全国値を下回ったもの
※★は継続している課題

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領指導事項	観点	正答率(%)		差
				県	全国	
1	(1) 情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	「聞くこと」	知識	76.1	79.0	-2.9
	(2) 情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	「聞くこと」	知識	61.5	64.4	-2.9
	(3) 情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	「聞くこと」	知識	44.2	49.8	-5.6
2	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	「聞くこと」ア	思考	54.8	61.1	-6.3
3	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	「聞くこと」ア	思考	36.1	41.2	-5.1
4	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	「聞くこと」ウ	思考	51.4	54.8	-3.4
5	(1) 情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる	「読むこと」	知識	52.4	56.0	-3.6
	(2) 「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる	「読むこと」	知識	62.3	64.5	-2.2
6	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	「読むこと」ア	思考	32.3	35.9	-3.6
7	(1) 文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	「読むこと」	知識	56.1	59.8	-3.7
	(2) 日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	「読むこと」イ	思考	33.1	34.7	-1.6
8	(1) 社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる	「読むこと」ウ	思考	50.2	56.1	-5.9
	(2) 社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	「書くこと」ウ	思考	16.6	19.5	-2.9
9	(1) 未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる ①	「書くこと」ア	知識	34.2	40.4	-6.2 ★
	(2) 疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる	「書くこと」ア	知識	16.4	20.9	-4.5
9	(1) 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる	「書くこと」ア	知識	24.7	29.0	-4.3
	(2) 「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる	「書くこと」ア	知識	24.7	29.0	-4.3
10	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	「書くこと」イ	思考	5.9	7.4	-1.5

成果

【読むこと】英文を読み、書き手の考えが書かれている英文を選ぶ問題 (大問5 (2))
○日常的な話題について、助動詞shouldに着目して、事実と考えを区別して読むことは概ねできている。(本県: 62.3、全国: 64.5)

課題

【書くこと】文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書く問題 (大問9 (1) ①)
○未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことに課題がある。
(H31年度は、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文、一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書く問題であった。)

継続して課題となった問題 ●9-(1)①(本県34.2%、全国40.4%、差-6.2)

9 文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くことができるかどうかをみる問題

(1) 次の①、②について、例を参考にしながら、必要があれば()内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

(例) <友達同士の会話>

A : I called you at eight last night.

B : Oh, sorry. I (do) my homework then.

[答え] was doing

① <先生と生徒の会話>

A : Do you have any plans for summer vacation?

B : Yes. I (visit) my uncle in London.
I can't wait!

A : Wow, that's nice!

【正答例】

- ◎未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書いているもの (県 14.0%、全国 18.9%) am going to visit
- 未来表現 (be going to以外) の肯定文を正確に書いているもの (県 19.3%、全国 20.0%) will visit
- 未来表現の肯定文を書いているが、大文字・小文字の書き分け等に誤りがあるもの (県 0.8%、全国 1.4%) Am going to visit/Will visit など

【誤答例】

- ・未来表現の肯定文を書いているが、誤りがあるもの (県 1.6%、全国 1.8%) will be visit/am going visit など
- ・その他の解答 (県 56.0%、全国 51.2%) can visit/visited/visit/am visit/visiting/going to など
- ・無解答 (県 8.1%、全国 6.6%)

誤答例から考えられる授業での子供の姿

- ・会話の流れを理解することができていない。
- ・基本的な語や文法事項等を理解して正確に書くことができていない。

授業改善のポイント

※関連する単元・内容等(指導事項)

○【書くこと】ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

◆誤答から考えられる授業

- ・生徒が言語活動の目的や言語の使用場面を意識できていない授業
- ・生徒の学んだ知識・技能が実際のコミュニケーションにおいて活用されることなく、個別の知識としてとどまっている授業
- ・基礎的・基本的事項の確実な習得への手立てが不十分な授業

☆こんな授業へ

- ① 文脈に依じて理解した文法事項を正しく活用したり、活用することを通して文法事項を理解したりする活動を設定する。
- ② 書いた英文が相手に正しく伝わるかどうかについて、生徒自身が読み直して誤りを修正したり、ペアでチェックし合ったりして、正確な英文に書き直す活動を設定する。

※ 簡単な語句や基本的な表現などの学習内容については、言語活動において具体的な課題等を設定するなどして、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを通して繰り返し活用し、定着を図ることができるよう指導する。

(例)帯活動でのSmall Talkにおいて、「be going toを用いてやり取りをしよう」ではなく、「夏休みの予定を確認して一緒に遊べる日を決めよう！」など意味のある文脈の中で具体的な課題を設定する。

- ・場面や状況に応じて正確に英文を書くためには、文脈から適切な文の形式や時制を判断することが大切である。その上で、意味内容の伝達のみにとどまるのではなく、生徒自身が英語表現の誤りに気づき、修正を加えながら正確さを高めていくことが必要である。

R5報告書(中学校英語)P61

改善状況の確認

◆関連する類似問題での確認

- ・H31全学調:中学3年 大問9(2)①、②
- ・R4県学調:中学1年 大問9(1)(2)、中学2年 大問10(1)(2)

～こんな子供の姿へ～

基本的な英文を理解した上で、目的や場面、状況などに応じて、文の形式や時制を適切に判断し、正確に表現しようとしている子供

3 今後の取組（各学校での取組に向けて）

①本県の課題である問題の克服→ 各教科の授業改善ポイントの**実践**を

②各学校の課題の克服 → 各学校での課題把握から実践、
定着確認まで確実な取組を

③問題の活用 →

- ・ **授業における**全学調等問題の活用
- ・ 全学調等問題と類似した**定期テスト問題**の作成等

できた

分かった

もっとやってみよう

〔取組の検証〕

【参考指標】 児童生徒質問紙
国語（算数・数学、英語）の授業の内容はわかりますか。

熊本県の結果（当てはまる＋どちらかといえば、当てはまる）

小学校：国語(86.6%)、算数(80.5%)

中学校：国語(75.9%)、数学(66.7%)、英語(56.8%)

各教科の平均正答率
→前年度からの「伸び」

状況の向上を目指す